

フナバハグルマゴケの新産地

高橋 祥 祐*

On the new locality of *Oligotrichum hercynicum*
in Akita Pref., Japan

Yoshisuke Takahashi*

1993年筆者は秋田県田沢湖町駒ヶ岳の蘚苔類リストを報告したが、今年度高山種のフナバハグルマゴケを発見したので追加報告する。

本種は蘚類、スギゴケ科の1種で、ラメラが葉の背腹両面にあること（タチゴケモドキ属）、葉縁は内曲し（図2）微歯があり（図3）、腹面のラメラは大きくうねること（図2）などが特徴である。

分布は、ヨーロッパ・グリーンランド・アラスカ・シベリアなどの寒帯で、日本では石川県白山を南限とする北日本の高山で稀に見られるものである。Osada(1966)によれば、日本でもっとも海拔高度の低い産地は秋田県栗駒山（海拔900m）とされている。筆者（1990）が県内で初めて採取したものは栗駒山の西方、湯沢市川原毛温泉の硫気孔付近（海拔760m）でOsadaの記録を更新するものであるが、群落が小さくあまり留意しなかった。今回の発見は県内で3番目の生育地であるが、駒ヶ岳では登山道の路側の砂礫地以外にも発見したので、県内での今後の精査を期待して報告する。

標本YT-11532は、駒ヶ岳の小岳の火山砂礫地に発達したアオノツガザクラチングルマ群落内に生育しているもので、植物体は1cmほどである。このような立地は駒ヶ岳全体にもたくさんあ

るので分布はかなり広いと思われる。似た環境に生育するコスギゴケ *Pogonatum inflexum* の小型のものが乾燥によりやや葉を茎に巻縮したようにも見えるがコスギゴケは粉緑色で本種は鮮緑色である。また、前者に比べて本種は密なマットを形成する。そのマットの特徴は、岩壁ではタカネスギゴケ *Pogonatum sphaerotherium* にも似ているので、これまでタカネスギゴケと思い見過ごした地域は精査の必要がある。この標本のデータは（産地）片瀬泉水付近、（メッシュ番号—都道府県別メッシュマップ05・秋田県—環境庁版）5940-56-03、海拔高度1500m、（採集年月日）19880811、（環境）陽地、湿地、斜面、草原、砂礫—であるが、ほかにも路側や雪溪の流水縁辺などの陽地数カ所に見られた。

標本YT-11544は、阿弥陀池東側の湿原地帯（5940-56-04）で、ハイマツ林下の日陰に生育している。そのため、植物体は2cmほどで陽地のものに比べて葉の付き方がややまばらで徒長した感じがする。採取したときはススキゴケ *Dicranella heteromalla* かと思ったが、検鏡して本種と確認できた。このことはほかの鳥海山や八幡平などのハイマツ林床にも生育の可能性が考えられるので今後も精査に努力したい。

〈参考文献〉

- T. Osada (1966), Japanese Politrachaceae II, The Journal of the Hattori Botanical Laboratory No. 29;
岩槻・水谷(1984), 原色日本蘚苔類図鑑, 保育社;
A. Noguchi (1987), Illustrated Moss Flora of Japan I, Hattori Botanical Laboratory;
高橋祥祐(1979-1986), 秋田県産蘚苔類目録I-IV, 秋田自然史研究 NO.11,12,15,20, 秋田自然史研究会;
高橋祥祐(1990), 湯沢・雄勝の蘚苔類, 秋田県立博物館研究報告No.15;
高橋祥祐(1993), 秋田県駒ヶ岳の蘚苔類, 秋田県立博物館研究報告No.18;

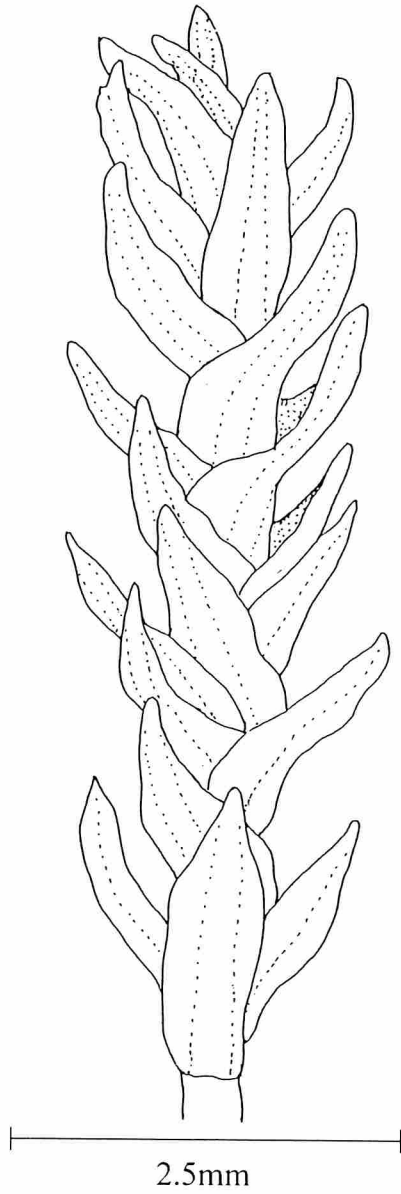


図1. 植物体全形

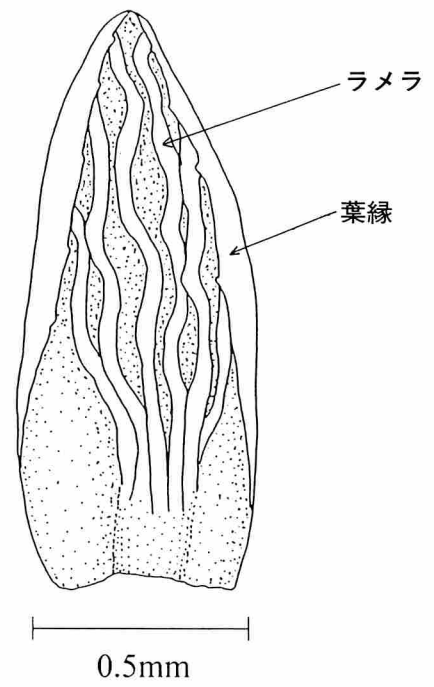


図2. 葉表面

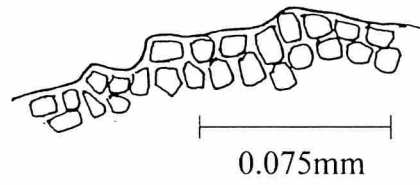


図3. 葉縁の微歯

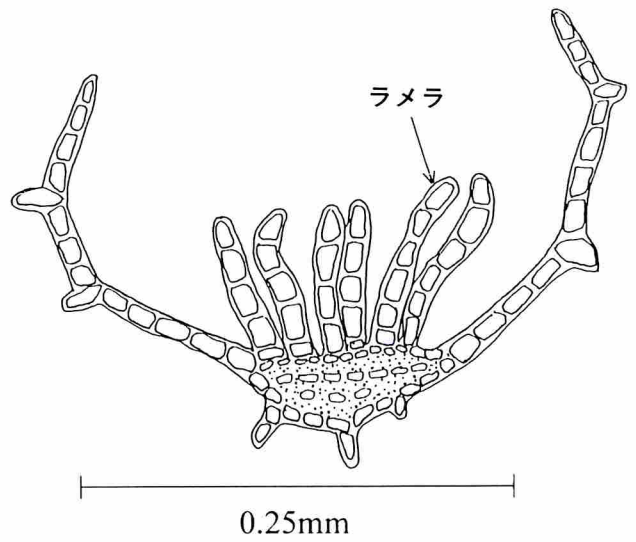


図4. 葉の横断面